

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 51) 2026. 1. 1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

ご挨拶

昨年は会員の皆様をはじめとして、多くの方々に、NPO 法人日本川崎病研究センターの活動に変わらぬご支援を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年 10 月 17 日～18 日に久留米大学須田教授を会長として第 45 回 日本川崎病学会が「川崎病を科学する」の標題のもと開催されました。

当センターの開設当初からお世話頂いた加藤裕久先生の追悼セッションも開催されました。先生の川崎病における業績に改めて思いを深くしたと同時に、先生の写真も多く掲示され、懐かしい思い出でいっぱいになりました。

同学会で、一時継続実施が危惧されていた川崎病の全国調査も、日本川崎病学会主導のもと「川崎病全国疫学調査 2023～24」として実施され、自治医大公衆衛生から発表されました。本研究の継続は川崎病の原因究明に不可欠と考えられ、当センターから研究助成補助金が当たられ、今後も当センターの主たる事業として継続したいと考えています。

さて、日赤医療センターのロビーに川崎先生の業績が記載されたレリーフが掲げられているのをご存じの方もあるかと思います。

筆者は最近 2 回続けて、このレリーフを見つめていたお二人の方に出会いました。「何か川崎先生に思い出でも？」と声をかけたとこ

今田義夫

ろ、お一人はうるんだ目で小さいころしばしば優しく診て頂き、感謝の声を伝えていたと、もう一人は年配の方で、自分の子どもがお世話になり、同じく感謝の意を伝えていたとお話をくださいました。先生がモットーとされていた、「医学は厳しく、医療は暖かく」が患者さんに伝わっていたことを実感しました。

本年は千葉大学の濱田洋通教授によりアジアパシフィック KD シンポジウムが 1 月 31 日に WEB 開催されます。

更に、第 46 回日本川崎病学会学術集会が千葉大学小児科の濱田洋通教授を会長として、千葉市文化センターで、10 月 2、3 日に開催予定であり、又、第 15 回国際川崎病シンポジウムは 2027 年 2 月 15 日～18 日に千葉市幕張メッセで当センター副理事長である獨協医科大学松原知代教授と千葉大学の尾内善広教授を会長として開催予定です。いずれも当センターは開催支援の予定です。

又、恒例となった当センター主催の勉強会は 1 月 17 日（土）に東邦大学大橋病院にて開催を予定しています。どなたでも参加可能ですので多くの方々の参加をお待ちしています。

（日本川崎病研究センター理事長）

ニュースレター No.51 をお届けいたします。

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

日本川崎病学会理事長に就任して

尾内善広

千葉大学医学部公衆衛生学の尾内です。日本川崎病研究センター会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年 10 月、久留米での第 45 回日本川崎病学会学術集会に先立って行われた理事会にて、一般社団法人化後、3 代目の理事長を拝命致しました。任意団体の日本川崎病研究会時代からの歴代会長・理事長をはじめ学会の発展に尽力されてきた諸先生方、関係者の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

私にとっての川崎病は、大学院生時代から 30 年近くにわたり取り組んできた研究テーマであると同時に、小児循環器医として川崎病を研究した父・尾内善四郎の背中を通して身近に感じてきた疾患でもあります。また、非常に懇意にしていただいた川崎先生ご夫妻、さらには研究会の時代から現在に至るまでに出会い、折に触れて励ましと示唆を与えてくださった多くの諸先生方との、かけがえのないご縁の中で歩んできた道でもあります。これらの積み重ねこそが、現在の私の研究姿勢と臨床観の原点を作っていると感じています。

日本川崎病学会は、基礎研究から臨床、疫学、社会医学に至るまで、学際的な議論と協働を大切にしてきました。今後は、これらの成果を次世代へ確実に継承し、若手研究者や臨床医が川崎病研究に参画しやすい環境を整えることが、学会としての重要な使命であると考えています。学会理事長として、日頃より川崎病の研究・診療・社会啓発に多大な貢献を続けておられる日本川崎病研究センターの活動に深く敬意を表します。

日本川崎病研究センターが担つてこられた

重要な役割の一つに、公募研究事業があります。この事業は、川崎病に関心を抱く若手研究者が新たな発想で研究に挑戦するための、極めて貴重な支援の場となっていました。研究環境が厳しさを増す中で、研究の芽を育み、次世代の研究者を支えてきた研究センターの取り組みに対し、学会を代表して深く感謝申し上げます。こうした継続的な支援こそが、川崎病研究の未来を切り拓く原動力になると確信しています。

また川崎病に関する相談事業についても、その大きさを認識しております。先日、ギリシャにお住いの女性から学会メール宛にご相談がありました。川崎病罹患歴のあるお孫さんが現在妊娠 6 ヶ月、当時川崎病は完治したと聞いているけどこのまま出産まで検査など受けずに大丈夫か、というものでした。研究センターにお願いし、鮎澤先生にご対応いただきましたが、そのお孫さんは川崎病に罹られた 26 年前に知人の日本人医師を通じ、川崎先生に相談をされていたことも話され、大いに感謝を示された、とお聞きしました。

日本のように川崎病について心配事がある時に相談できるお医者さんを探すのに苦労することがない国は限られるでしょう。川崎病が発見され、これまで最も多くが罹患し、そして既往者として暮らしている日本に川崎病を専門とする学会、研究センターが連携して存在し、世界の医師・研究者とネットワークを築いていることが、そういう国々の患者さんや家族を勇気づけるという意味でも重要であることに気づいたエピソードでした。川崎病研究センターの皆様とこれまで以上に緊密に連携し、川崎病の課題の克服と、患者さん一人ひとりのより良い未来の実現に向けて、尽力する所存です。

2027年2月15日から18日に千葉・幕張メッセで第15回国際川崎病シンポジウムを私と松原知代先生とで開催致します。多くのご参加をお待ちいたしております。

最後になりますが、今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願ひ申し上げます。

(千葉大学医学部公衆衛生学)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

川崎病勉強会2025 開催について

ご挨拶

松原 知代

皆様、こんにちは。今回の川崎病勉強会の当番理事の松原知代（獨協医科大学埼玉医療センター小児科）です。今年度も2026年1月17日土曜日午後に川崎病勉強会2025を前回と同じように東邦大学医療センター大橋病院講堂とオンラインのハイブリッド開催で実施させていただきます。

新型コロナウイルスのパンデミックの期間は、インフルエンザや夏カゼのウイルス感染症が激減し、新規川崎病患者さんも減少しましたが、パンデミックが終わり、様々な感染症が今までにない季節に流行し、感染症で忙しい小児科診療が戻ってきました。今年度の川崎病勉強会は、リニューアルした全国川崎病疫学調査2023-2024報告の解説を自治医科大学公衆衛生学の阿江竜介先生にしていただきます。パンデミックの間に減少した新規川崎病患者数は再度増加し、特に年長児の増加が著しいなど今までと異なる傾向がみられています。急性期治療では様々な強化療法が提唱され使用されていますが、冠動脈後遺症の発生率は横ばいで、巨大冠動脈瘤もいまだ

0にはなっておりません。一部の施設からは川崎病にはサブグループがあることが提唱されています。日本でのデータを解析している山梨大学須長先生をはじめ、最新の研究をしている先生方にご登壇していただく予定です。

さらに、小児科では、多くの小児期発症の慢性疾患について、小児科で診ていて成人になっていく移行期の支援が問題となっています。疾患によって支援体制は様々であり、個々に対応していく必要があります。支援は医師、看護師、心理士など多職種でかかわる必要があり、患者さん本人および保護者のかかわり方などについて患者会も重要な役割を担うと思います。そこで、今回は「原因究明・病態解明」からは少し異なりますが、患者さんのためのよりよい支援は何かを考えるきっかけとして、小児膠原病の患者サポートをしている方にご講演をお願いしてシンポジウムをおこないたいと思っています。

2027年2月には国際川崎病シンポジウムが幕張で開催されます。この川崎病勉強会がひとつの問題提起の場となれば幸いです。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

(獨協医科大学埼玉医療センター小児科

当センター副理事長)

川崎病勉強会2025

日時 2026年1月17日(土) 13時～17時
場所 東邦大学医療センター大橋病院とWebによるハイブリッド開催

プログラム

講演1：川崎病企画研究会2023-2024 結果ハイライト

阿江竜介 台湾师范大学医学系公衆衛生学講師

講演2：造影剤の評価でこれまで見落とすかもしれないアプローチ

遠藤佐和子 ICSO, KIDS

講演3：免疫抑制剤を始めた後の炎症のクロストラッピング解析と今後の可能性

須長 勝人 山梨大学医療保健附属病院小児科学講師

講演4：シクロスボリソーム抗体の新しい読み込みとpre-Z boxと冠動脈瘤予後に関する研究

池田和也 斎藤裕介 医療系大学 小児科

シンポジウム：患者のあひだと医療側のサポートの仕方について～患者さんのために～

1. 腹痛症、リウマチ、血管炎サポートネットワークについて

大内 裕子 NPO法人糖尿病・リウマチ・血管炎サポートネットワーク

2. 親の会の現在の問題點と今後の課題、希望

正木潔子 川崎病の子どもたちの親の会

3. 日本小児科学会で開催する成人併行会議について

松澤知子 NPO法人日本川崎病研究センター

参加料 法人会員割引【10,000円】 (「なたでもご参加いただけます」)

登録用 QRコードまたはウェブサイトからお問い合わせください。

参加料 無料

<https://opnthe.wixsite.com/o-y-site/2025>

問い合わせ先：松原知代 takayoshi@okkyomed.oc.jp



ご参加お問い合わせ

アジアパシフィック川崎病協会の活動と 2026 シンポジウムの開催

濱田洋通

2016 年からアジア諸国の川崎病診療を行っている先生方との学術的交流を行っています。今日は、その活動紹介と 2026 年 1 月 31 日に Web 開催される、Asia Pacific Kawasaki Disease Association (APKDA) symposium の宣伝をしたいと思います。

2016 年以前も個人的な交流はありましたが、1つの会として知らない者同士をひきあわせるような、一同に会する活動はなかったと思います。この会を作るきっかけは 2016 年 5 月にメキシコから「日本で川崎病を勉強したい」と東京女子医科大学八千代医療センターに visiting fellow としてやってきた Bere 先生(Gámez-González, L.B, MD)との交流でした。メキシコ国立小児病院リウマチ科の部長である日系 3 世の

Yamazaki-Nakashimada, M. A 先生が「川崎病を学ぶなら米国ではなく日本に行きなさい」とおっしゃってくれて来日しました。いつも明るく、また診療での気づきを報告論文にする力もある先生が、「南米には諸国がまとまって勉強する組織がある」と言うのです 1,2,3)。それ RECAMILATINA でした。この組織はお互いの勉強や情報共有だけでなく、共同研究論文も複数発表しています 4,5,6)。難治性の患者さん、心臓後遺症を遺した患者さんの治療方法について、個々の先生方が情報を得られる場にもなっていると聞きました。

そこで、アジアにおいてもそのような組織を作ろうと考え、津田悦子先生(国立循環器病研究センター)や赤木禎治先生(日本成人先天性心疾患学会理事長、岡山大学)に、アジアで川崎病診療を行っている先生方を紹介して頂きました。

た。Asian Kawasaki disease Clinical Research Network という名称で、各国から希望する医師が個々に参加する共同体組織として開始しました。2016-18 年はアジア各国の疫学・治療を中心とした調査票による調査を行いました。2018 年 6 月の国際川崎病シンポジウム(IKDS 横浜)の会期中に第1回のオンライン会議を行い、各国の疫学・治療を共有し議論しました。その際、新たな研究テーマとしてアジア各国での不全型川崎病の状況を知りたいとの提言があり、2018 年 11 月から準備を重ね、2020 年 1 月から 12 月の 1 年間、5 カ国 5 施設が前向き調査を行い、初めてアジア 5 地域共同の論文が発表されています 7)。

これらの活動をきっかけとして、私と尾内善広先生(日本川崎病学会理事長、千葉大学)が 2018 年 10 月にインドに招かれ、以来日本人医師・研究者が毎年秋に行われるインド川崎病学会に招かれて講演しています。インドでは、国立大学院大学小児病院のアレルギー・リウマチ科(Post Graduate Institute of Medical Education and Research :PGIMER)の Surjit Singh 先生を中心に川崎病診療と研究を牽引していました。2023 年に訪れた際にはインドの患者さんを診療いたしました。患者家族との会話を通じていかにインドの先生方が懸命に川崎病患者さんを診療しているかを実感しました。今後、アジアの川崎病診療はぐんぐん向上してゆくと確信しています。

2021 年 11 月から、活動組織を Asia Pacific Kawasaki Disease Association (APKDA) として、上海、北京、台湾、香港、韓国、日本から運営委員の先生方共同で運営しています。ヒトが変わっても活動が継続できることを目的としています。運営事務局は日本とし

て、2022/4に日本川崎病学会でこの組織の承認を得ています。また、日本川崎病研究センターには、第1回シンポジウム(Web)、2024年の国際川崎病シンポジウム(IKDSトロント)での会議への支援を得ております。2026年1月31日に2回目のWebシンポジウムを開催する予定です(写真ポスター参照)。このシンポジウムには医療者だけでなく、患者の会の皆様も参加できます。参加費は無料です(センター、日本川崎病学会の支援のおかげです、ありがとうございます)。言語は英語ですが、アジアの川崎病診療・研究の雰囲気はわかると思います。是非、お気軽にご参加ください。登録サイトは下記の通りです。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_d4QIS-DmRfOT0Ry7Q5CK_A

今後もアジア諸国の川崎病診療の向上と、新たな知見をアジア共同で発見してゆくことが目標です。ご指導・ご支援を宜しくお願ひ致します。

- 1) Gamez-Gonzalez LB, Hamada H, et al. BCG and Kawasaki disease in Mexico and Japan. Hum Vaccin Immunother. 2017;13:1091–1093. doi: 10.1080/21645515.2016.1267083.
- 2) Gámez-González LB, Hamada H, et al. Vital Signs as Predictor Factors of Intravenous Immunoglobulin Resistance in Patients With Kawasaki Disease. Clin Pediatr (Phila). 2018;10:1148–1153. doi: 10.1177/0009922818759320.
- 3) Yamazaki-Nakashimada MA, Gámez-González LB, et al. IgG levels in Kawasaki disease and its association with

clinical outcomes. Clin Rheumatol. 2019;38:749–754. doi: 10.1007/s10067-018-4339-0.

- 4) Bainto EV et al. Clinical Presentation and Outcomes of Kawasaki Disease in Children from Latin America: A Multicenter Observational Study from the REKAMLATINA Network. J Pediatr. 2023;254:72–79.e3. doi: 10.1016/j.jpeds.2022.12.050.
- 5) Gámez-González, L. B., et al. Macrophage Activation Syndrome in MIS-C. Pediatrics, 2024; 154: e2024066780. <https://doi.org/10.1542/peds.2024-066780>
- 6) Moreno E et al. Presentation and Outcomes of Kawasaki Disease in Latin American Infants Younger Than 6 Months of Age: A Multinational Multicenter Study of the REKAMLATINA Network. Front Pediatr. 2020;8:384. doi:[10.3389/fped.2020.00384](https://doi.org/10.3389/fped.2020.00384). PMID: 32984203

- 7) Yu X, Hamada H, et al. A collaborative study for incomplete Kawasaki disease in Asia. Int J Rheum Dis. 2023;26:2589–2591. doi: 10.1111/1756-185X.14812.

(千葉大学大学院医学研究院小児病態学)



事務局から

【センター日報】

2025年5月16日 2025年度第1回理事会開催 5:00pm～（於：エッサム神田） Zoom会議
2025年5月16日 2025年度公募研究選考委員会開催 5:00pm～（於：エッサム神田） Zoom会議
2025年5月31日 2025年度総会研究報告会開催（於：エッサム神田） 1:00pm Zoomハイブリッド
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽に立ち寄りください。
2025年5月31日 2025年度第2回理事会 総会後開催予定でしたが特に議題なく解散。
2026年3月6日 2025年度第3回理事会開催予定 5:00pm～（於：当センター） Zoom会議

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数】2025年12月末現在

[正会員：67名、1法人、2任意団体] : [賛助会員：88名、0法人、0任意団体]

【学会・研究会・国際シンポジウム】

- ★ 第50回近畿川崎病研究会 2026年3月7日（土）13:00～ 於：グランフロント大阪
運営委員長：津田悦子先生（国立循環器病研究センター小児科）
- ★ 第45回東海川崎病研究会 2026年5月16日（土）
代表世話人：犬飼幸子先生（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院小児科）
- ★ 第45回関東川崎病研究会 2026年6月20日（土）14:00～於：日赤医療センター講堂
代表世話人：濱田洋通先生（千葉大学小児科）
- ★ 第46回日本川崎病学会 2026年10月2・3日（金・土）予定 於：千葉市文化センター
会頭：濱田洋通先生（千葉大学小児科）
- ★ 第15回国際川崎病シンポジウム 2027年2月15～18日（月～木） 於：幕張メッセ（千葉）
会頭：松原知代先生（獨協医科大学小児科）・尾内善広先生（千葉大学公衆衛生学）
- ★ 「川崎病の子供をもつ親の会」問い合わせ先：Tel：0467-55-5257

新会員募集にご協力ください！！！

正会員 年会費 20,000円

賛助会員 年会費 5,000円

【川崎病に関するご相談】

専用アドレスを開設しました。kdcentersoudan@gmail.com 担当理事が、随時返信でお答えさせていただきます。電話・Faxによるご相談はご遠慮ください。

【川崎病急性期カードお申込み】

専用アドレスを開設しました。kdcenterkdcards@gmail.com 主治医の先生に記入して頂き、母子手帳などと共に保存して今後にお役立てください。

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-1-1 ALES 6階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124